様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　４ 月 １９ 日現在

機関番号：１４５０１
研究種目：若手研究
研究期間：2022～2023
課題番号：２２Ｋ１８０７９

研究課題名（和文）社会共生を促す都市在住シリア難民の障害者リーダー育成

研究課題名（英文）Nurturing leaders with disabilities among Syrian refugees living in urban areas to promote social coexistence

研究代表者
山本　清治（Yamamoto, Seiji）

神戸大学・保健学研究科・保健学研究員

研究者番号：７０８２８９０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本報告の調査から都市在住シリア難民障害者の就労における社会参加の課題について【活動を継続する資金が乏しい】,【地域住民の障害に対する認識が乏しい】,【障害当事者の評価が困難である】,【障害者の雇用受け入れが少ない】からなる4つのカテゴリーに分類された. 研究対象者は障害を有するにも関わらずジョブコーチとして活動を行っていた.しかし資金面,地域住民の障害に対しての認識,医療専門職からの評価,雇用先の制限などの課題があった.作業療法士は国際協力において現地ジョブコーチを連携して障害当事者の評価を行い,適切なサービスを提供できるよう協働することの必要性が社会共生のために示唆された.

研究成果の学術的意義や社会的意義
2011年から長期化するシリア紛争では多くの国内・国外避難民が流出し近隣諸国での生活を余儀なくされている。その中には紛争による難民障害者が含まれ、その機能低下や都市環境により社会参加の障壁になっている。本研究では、都市に居住する難民障害者の状況について明らかにし、課題分析を進めた。その中には障害者自身のエンパワーメントの低下や就労に向けた知識・技術の不足などが挙げられた。そこで難民障害者からジョブコーチを育成し、コミュニティーに居住する難民障害者のエンパワメントに寄与することにより、避難先コミュニティーで難民としての立場での生活だけでなく、社会的自立しコミュニティーの中での社会共生に繋げた。

研究成果の概要（英文）：The research in this report reveals the challenges of social participation in employment for Syrian refugees with disabilities living in urban areas: [lack of funds to continue activities], [poor awareness of disabilities among local residents], [difficult to evaluate people with disabilities] The research subjects were classified into four categories consisting of [low employment acceptance of people with disabilities].The research subjects were working as job coaches despite having disabilities. There were issues such as recognition of disability, evaluation by medical professionals, and restrictions on employment opportunities.Occupational therapists collaborated with local job coaches in international cooperation to evaluate people with disabilities and provide appropriate services. The necessity of collaboration was suggested for social coexistence.

研究分野：国際保健

キーワード：シリア難民障害者　エンパワーメント　ジョブコーチ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

2011 年に勃発したシリア戦争は未だ 5,573,095 人の難民を国外に排出し,シリアの隣国ヨルダンには 676,60 人の難民が UNHCR に登録されている [1)2)]. そのシリア難民の約 80%は都市に在住している.Handicap International は難民の 26%が何らかの機能障害を有すると報告している [3)]. ヨルダンの首都アンマンにあるシリア難民障害者支援 NGO では職場適応援助者（ジョブコーチ）支援事業を展開している. 職場適応援助者支援事業は、障害者の職場適応に課題がある場合に、職場にジョブコーチが出向いて、障害特性を踏まえた専門的な支援を行い,障害者の職場適応を図ることを目的としている [4)].その職場適応援助者支援事業では３名のシリア人障害者（脊髄損傷）がシリア難民知的障害者を対象にコンピューターの使い方を教えるジョブコーチとしての活動をして障害者の社会参加を促している.

２．研究の目的

著者は,都市部に居住するシリア難民障害者の社会参加の状況についてこれまで報告してきた.首都アンマンに居住する難民障害者は東アンマンに位置する貧困地区に居住する傾向が高く,ヘルスリテラシー不足や廃用症候群が要因となって健康状態の悪化に影響していると報告した[5].また近年,シリア難民障害者への支援縮小により難民障害者収容施設が閉鎖し,難民障害者とその家族は都市部に孤立した状況で生活し,居住家屋確保は難民にとって大きな課題となっている[6].しかしながら先行研究では障害者ジョブコーチの視点からみたシリア難民障害者の社会参加の課題について明らかにはなっていない.本報告の目的は都市在住シリア難民障害者の就労における社会参加の課題について明らかにすることである.

３．研究の方法

対象と方法

１　研究対象者と倫理的配慮

研究対象はシリア紛争により障害を有しジョブコーチとして活動する １３名とする.本研究は １３名の所属する難民支援団体及び個人に研究内容について文章と口頭で説明し同意と署名を得ている.またプライバシーに留意し個人が特定しないように配慮して実施した.

本研究調査は 2022 年 6 月から 2022 年 8 月に筆頭著者がヨルダン首都アンマンで実施した.研究対象者の選定は著者が 2013 年から外務省緊急支援事業及び国際協力機構の実施したシリア難民障害者支援事業専門員として連携したシリア難民現地支援団体に著者が研究協力を依頼し,団体に従事するジョブコーチから抽出した.

２　データ収集方法

著者がジョブコーチの家庭を訪問しアラビア語で,対象属性（性別,年齢,疾患名,ヨルダンでの居住年数,基本動作の遂行度,ジョブコーチの経験年数,ジョブコーチの内容）について質問紙で聴取した. またインタビューガイドをもとに①ジョブコーチの内容,②ジョブコーチ活動遂行における困難,③地域住民の障害者の就労に対しての認識,④ジョブコーチ活動の今後の課題を半構造化面接でアラビア語により聴取した.面接内容は研究対象者の承諾を得て録音した.

３　データ分析方法

データ分析方法は,Strauss＆Corbin 版 Grounded Theory Approach を参考にした(10).この方法の特徴は,出来事が発生する条件,条件に対する人々の行為とその結果を説明できる.故に都市在住シリア難民障害者へのジョブコーチ活動とその課題を調査するのに適していると考え分析方法として採用した[7].分析手順は著者と国際保健及び難民障害者支援に精通

する各研究協力者2名が逐語録を熟読し,同じ意味の纏りごとにコード化を行った.その後,類似の特性を持つコードを纏めカテゴリー化した.本研究では理論的飽和に至った時点で,コード化とカテゴリー化を終了し,都市在住シリア難民障害者へのジョブコーチ活動と就労の影響について考察を行った. また分析過程の言語バイアスを考慮して逆翻訳を実施した.その手順について以下に詳細を示す.

1)音声録音したインタビューデータからアラビア語を母国語とする研究協力者と著者で逐語録を作成し,逐語録と音声データ内容の相違が無いか共同で確認した.

2)アラビア語で作成した逐語録をアラビア語と日本語に精通している研究協力者と著者で日本語逐語録に翻訳した.

3)日本語逐語録を日本語とアラビア語に精通し国際保健に従事する研究協力者Aにより,アラビア語逐語録に逆翻訳した.

4)逆翻訳したアラビア語逐語録とインタビューデータから作成したアラビア語逐語録を,アラビア語を母国語とし国際保健に精通する研究協力者Bにより比較検討し,内容の正確さを確認して言語バイアスに考慮した.

2-4　真実性の確保

結果の真実性を確保するために,①分析過程で検討したことをメモに記録して思考過程の透明性を確保し,②質的研究実践者（N.M）に適宜指導を受け,異なった理論的・方法論的背景に立つ複数の研究者(S.Y,T.A and N.M).が共同して検討に関わりトライアンギュレーションを行なった.

４．研究成果

本報告から障害者ジョブコーチからみた首都アンマンでの職場適応援助者支援事業について,【活動を継続する資金が乏しい】,【地域住民の障害に対する認識が乏しい】,【当事者の評価が困難である】,【障害者の雇用受け入れが少ない】といった課題が挙げられた.

長期化するシリア紛争に対して,国際社会の支援は縮小されておりホストコミュニティーの負担も増加している.それ故,難民キャンプの閉鎖,避難シェルターの縮小化,生計支援の軽減,地域シリア難民支援団体への費用削減などに繋がっている.

職場適応援助者支援事業にもこれらの状況は影響しており,活動資金の制約に繋がる傾向にある.実際に活動資金が乏しいことから活動自体の継続性が損なわれる可能性が高く,更に多様な技術や知識を教授するジョブコーチ人材を確保することができない.それ故,就労の選択肢が限定されてくる可能性がある.

また作業療法士や理学療法士など医療専門職の評価をした上で職場適応援助者支援事業を受けることができていないことから,障害当事者の能力に沿ったサービスを受けることができないことが課題となっている.

居住コミュニティーの課題として障害当事者の社会参加に対して地域住民の意識が乏しく,地域の中で孤立した存在になりがちである.この要因は先行研究から廃用症候群の蔓延や居住空間が物理的バリアを多く含む傾向があることが影響している[5)6)].しかし健康予防や環境整備など作業療法の専門性の一つを提供できていない.その要因としてはヨルダンで実施されているリハビリテーションは運動療法が中心となっており,活動や参加,環境因子への介入が不足していることが影響している[8)].

ヨルダンには障害者の雇用を促進する法律が存在するが,物理的に雇用を受けいれている企業が少ない点も,障害当事者の就労に繋がらない要因となっている.

本報告の研究対象者は障害を有するにも関わらずジョブコーチとして活動を行っていた.しかし資金面,地域住民の障害に対しての認識,医療専門職からの評価,雇用先の制限などの課題があった.

今後もシリア紛争による避難先コミュニティーでの難民障害者の停留は長期化すると考えられ,国際協力による支援は喫緊の課題である.我々作業療法士は国際協力において現地ジョブコーチを連携して障害当事者の評価を行い,適切なサービスを提供できるよう協働することの必要性が示唆された.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関